

キッチン用タッチレス水栓

SF-NB451SX型

工事店様へのご願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。
また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。
商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解の上正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に動作することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

- 警告** …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
- 注意** …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
- ▲ …… 「注意しなさい！」
(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)
- ⊘ …… 「してはいけません！」 (一般的な禁止記号です。)
- ⊘ (分解禁止) …… 「分解してはいけません！」
- ⊘ (水場禁止) …… 「バスルームやシャワールームなどの水場で使用してはいけません！」
- ⚡ …… 「指示通りにしなさい！」 (一般的な行動指示記号です。)

警告	
⊘ (分解禁止)	修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※発火、感電したり、異常動作してケガをすることがあります。
⚡ (指示)	給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。
⊘ (禁止)	水につけたり、水をかけないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。
⊘ (水場禁止)	バスルーム等の水がかかる所や、表面に水滴を生じやすいような湿気の多い場所では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。
⊘ (禁止)	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っばったり、ねじったり、束ねたり、重い物を乗せたり、挟み込んだりしないでください。 ※電源コードが破損し、発火、ショート、感電の原因になります。
⊘ (禁止)	電源プラグを濡れた手で触れないでください。 ※感電の原因になります。
⊘ (禁止)	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントへの差し込みがゆるいときは使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因になります。
⊘ (禁止)	交流100V (50/60Hz) 以外では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因になります。
⊘ (禁止)	直流電流や異電圧の電源での使用は避けてください。 ※火災の原因になります。
⊘ (禁止)	電源プラグに付いたホコリは、取り除いてください。 ※電源プラグにホコリがたまり、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
⚡ (指示)	電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。 ※発火、ショート、感電の原因になります。
⊘ (禁止)	水道水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により漏水、発火、ショート、感電の原因になります。
⊘ (禁止)	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。
⚡ (指示)	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。 ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをする恐れがあります。
⊘ (禁止)	給湯機器の温度設定は85℃以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。
⚡ (指示)	フレキホースの差し直しやストレーナの掃除をする際は、必ず湯側・水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
⊘ (禁止)	トイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウェットティッシュ、クレンザー、クレゾールを使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因になります。
注意	
⊘ (禁止)	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因になります。
⚡ (指示)	お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 ※凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
⊘ (禁止)	水栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。

本製品の仕様と条件

電源	AC 100V 50/60Hz	消費電力	常時：0.8W 動作時：1.4W
給湯器設定温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水 (※1)
使用環境温度	【一般地仕様】 0~40℃ 【寒冷地仕様】 -20~40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。	
給水給湯接続	G1/2		
圧力条件	0.06MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧) 給水圧力≧給湯圧力 (※2)		
感知距離	約40mm(グレーカード：80mm角)	感知エリア幅	約φ5mm
電源コード長さ	1.8m		

- ※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。
※2：給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

ガス給湯器(比例式制御式：16号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A+0.09MPa(流動圧) ※Aはガス給湯器の最低動作圧力です。
最高圧力	0.75MPa(静水圧)

- 測定条件は次の通りです。
●レバーハンドルは全開。
●給水温度5℃、吐出温度42℃(ガス給湯器との組み合わせが最も寒い冬季を想定)。
●給水圧力はガス給湯器直前における流動時の圧力です。
●ガス給湯器の設定温度は最高温度です。

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.07MPa(流動圧)
最高圧力	0.75MPa(静水圧)

- 給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa)に減圧してください。
- 給湯器に蒸気は使用できません。
- 給湯温度は使用する最高温度より約10℃高く設定してください。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60℃以下をおすすめします。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

- 取付けにはプラスドライバー、スパナ(対辺8)、モンキーレンチ、マイナスドライバーが必要です。

止水栓を付けてください。

- 取付け後の流量調節や手動弁操作・保守点検のために、必ず止水栓(別売)を付けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために、流量調節をしてください。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

隠蔽部に施工する場合は点検口を付けてください。

- 取付け後の手動弁操作の施工のために、必ず点検口を付けてください。

補強材を使う場合

- カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。やむをえない事情で珪酸カルシウム板を使用する場合は、別売りのA-3B11を使用して取り付けてください。

配管・配線について

- 給水は水道水に接続してください。
※温泉など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- ACアダプターは必ず指定のものをご使用ください。
- 万が一の危険防止の為、電源の一次側に1か所漏電遮断器を設置してください。
- 電源線はφ1.6mm又はφ2.0mm以上のものをご使用ください。(現場手配)
- 電気工事は必ず電気工事に依頼してください。
- コンセントは1口タイプをご使用ください。
- コンセントは、ACアダプターの定期的なお手入れが行えるような位置に付けてください。
※隠蔽部には設けないでください。
- 水道工事と電気工事は十分工程を打ち合わせのうえ行ってください。
- 必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。

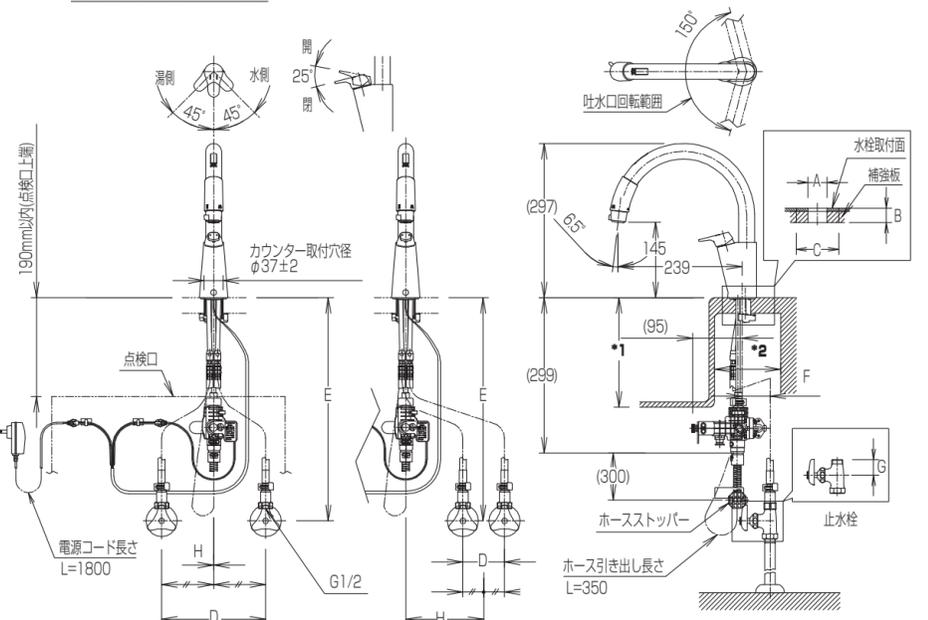
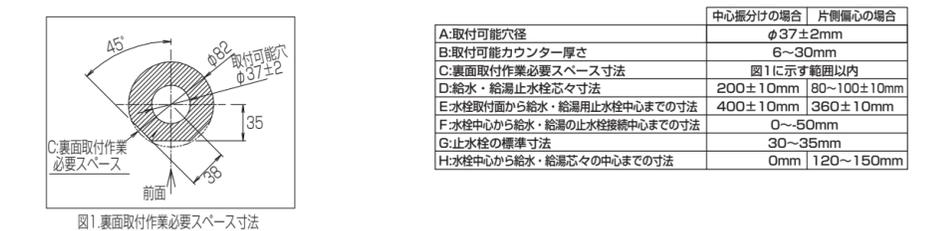
その他の注意点

- 商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- センサーの窓を傷つけないように十分にご注意ください。
- インバーター照明や赤外線を用いたほかの機器により誤動作する場合があります。
- 直射日光が当たる場所でのご使用は誤動作の原因になります。

施工完了図

- 品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。
- シンク深さ(厚み含む)*1寸法が220mm以上の場合*2寸法が145mm以上ないと、バルブがシンクと干渉し施工できません。*1寸法が220mm以上かつ*2寸法が145mm未満の場合は当社お客さま相談センターまでお問い合わせください。
- 水栓取付面から上方450mmより低い位置に棚や物がある場合は施工できません。
- 使用時には、375mm以内に他器具(昇降キャビネットの取っ手を含む)のないようにしてください。
- 水栓取付面からシンク下の底板(棚板)までの距離が540mm以上ないと、ホース収納時に底板(棚板)との干渉が大きくなり、使用上問題はありますが、ホース収納性が悪くなります。
- コンセントは電源コードの届く範囲で、床面より高く水のつかからない位置に設置してください。

SF-NB451SX型



SF-NB451SXN型

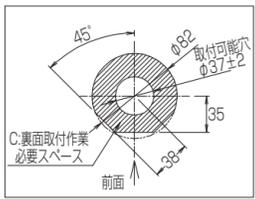
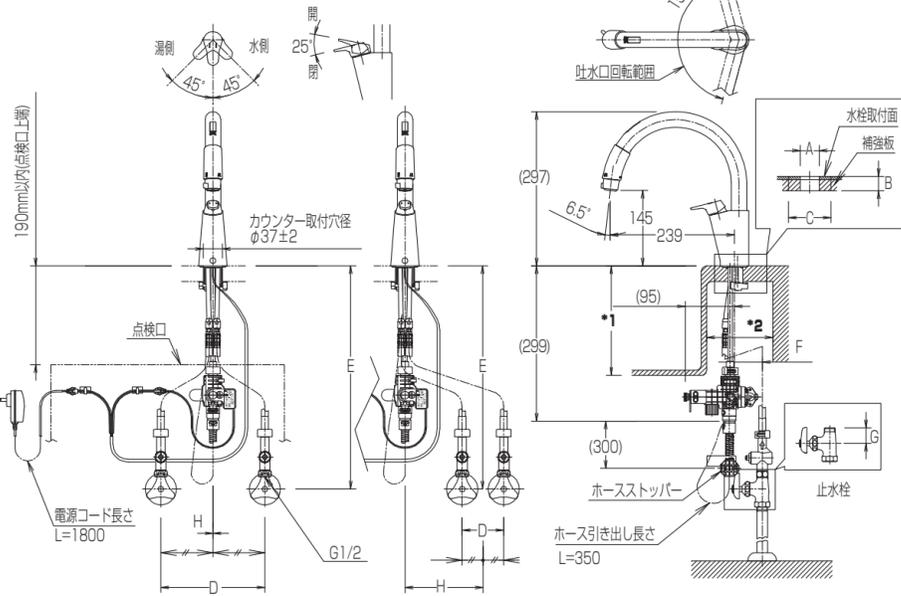
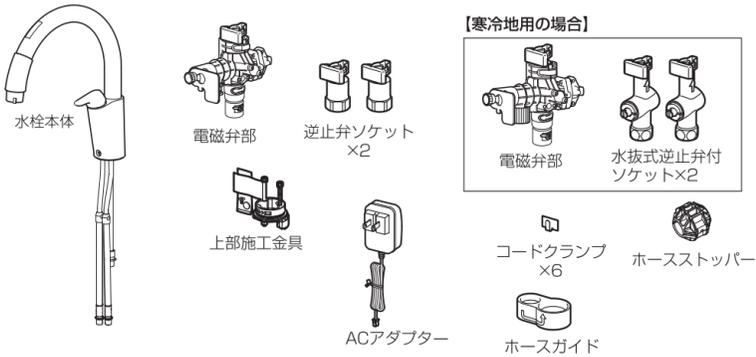


図1.裏面取付作業必要スペース寸法

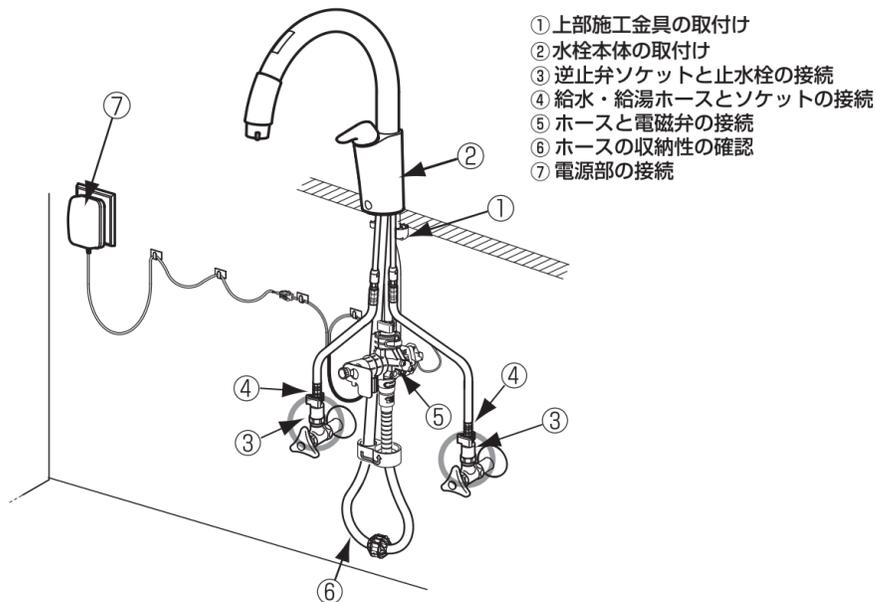
	中心振分けの場合	片側偏心の場合
A.取付可能穴径	φ37±2mm	
B.取付可能カウンター厚さ	6~30mm	
C.裏面取付作業必要スペース寸法	図1に示す範囲以内	
D.給水・給湯止水栓芯々寸法	200±10mm	80~100±10mm
E.水栓取付面から給水・給湯用止水栓中心までの寸法	400±10mm	360±10mm
F.水栓中心から給水・給湯の止水栓接続中心までの寸法	0~50mm	
G.止水栓の標準寸法	30~35mm	
H.水栓中心から給水・給湯芯々の中心までの寸法	0mm	120~150mm



部品の確認



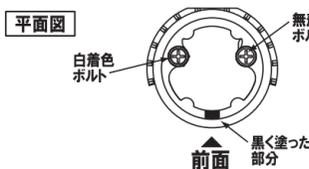
2. 施工手順



3. 施工方法

以下の手順の通り、正しく取り付けてください。

1 上部施工金具の取付け

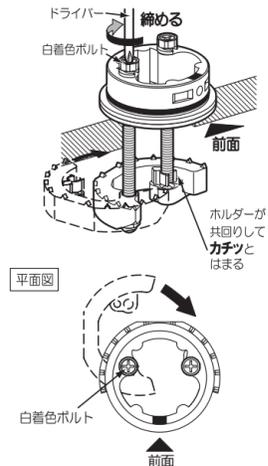


注意
上部施工金具は向きに注意して、正しく取り付けてください。
※正しく取り付けないと水栓本体の固定強度が低下するなど、不具合の原因になります。

1. 無着色のボルトをゆるめ、ホルダーを外す。
2. ホルダーを水栓取付穴に挿入する。

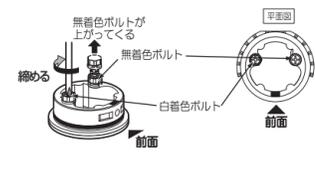
3. アダプターの黒く塗った部分が前方を向くように位置決めをする。

4. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトを1~2回転締める。

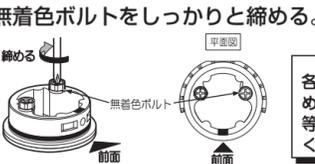


注意
ゆっくり回してください。
※高速回転はしないでください。正しく施工できなくなる恐れがあります。

5. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトをしっかりと締める。

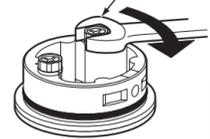


6. 無着色ボルトをしっかりと締める。



ポイント
各ボルトを交互に締め付け、締め力が均等になるようにしてください。

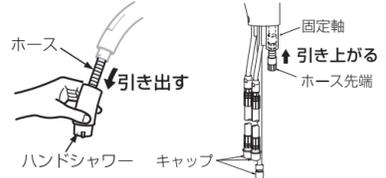
7. スパナでそれぞれのボルトを約1/2回転程度増締めする。



注意
締め付けすぎないでください。
確認
アダプターのくらつきがないことを確認してください。

2 水栓本体の取付け

1. ホースの先端が固定軸の中にかくれるまでハンドシャワーを引き出す。



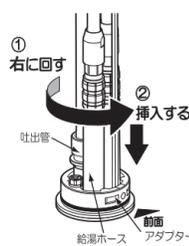
注意
●先端のキャップはそれぞれ接続する直前まで外さないでください。
※Oリングに傷がついたりゴミが噛み込むことで漏水の原因となります。

2. センサーコードを先にアダプターに挿入し、続いて給水・給湯ホースを挿入する。



ポイント
給水・給湯ホースを下図のように横並びにして挿入してください。

3. 吐出管がアダプターに当たる手前で水栓本体を右に回し、吐出管を挿入する。



ポイント
吐出管が後ろ側にくるまで回転させてください。

4. そのままの向きで、パイプガイドを挿入する。



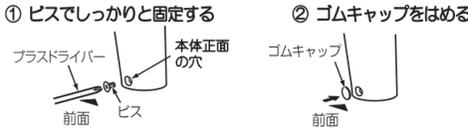
ポイント
パイプガイドが後ろ側にくるようにしてください。

5. 水栓本体をアダプターに装着する。



注意
●センサーコードをはさみ込んだり、引っ張ったり、銅管にからませないでください。
※コードが破損し、発火・ショート・感電の原因になります。

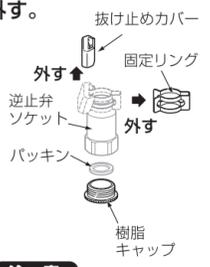
6. 水栓本体を固定する。



確認
水栓本体にくらつきがないことを確認してください。

3 逆止弁ソケットと止水栓の接続

1. 抜け止めカバー・固定リング・樹脂キャップを外す。
2. 逆止弁を止水栓に固定する。

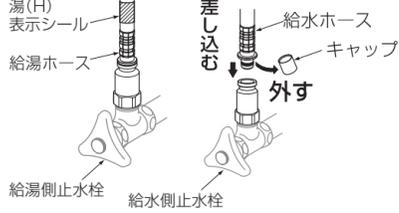


注意
パッキンの紛失に注意してください。
※パッキンの紛失は漏水の原因になります。

注意
締め付けはナット部に工具を掛けて、しっかりと固定してください。
※締め付けが不十分であったり強く締め付けすぎると、漏水の原因になります。

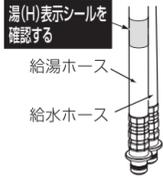
4 給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続

1. 給水・給湯ホースを逆止弁ソケットに差し込む。



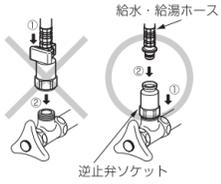
注意
Oリングに傷をつれたりゴミがみがないよう注意してください。
※漏水の原因となります。

●給水・給湯ホースの差し間違えに注意してください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。



注意

●必ず逆止弁ソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。
※漏水の原因となります。

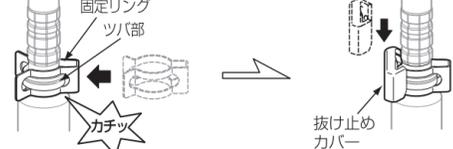


●ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上確保してください。
※漏水の原因となります。



●給湯配管には、給湯ホースのみ接続してください。

2. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



確認

給水・給湯ホースを上へ引き、外れないことを確認してください。



注意

●抜け止めカバーははめたままにしてください。
※リングに触れるとケガをする恐れがあります。

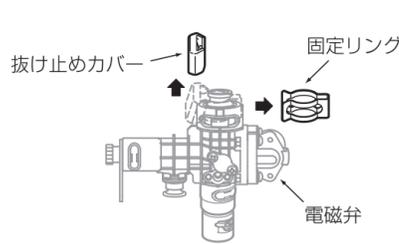


●固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

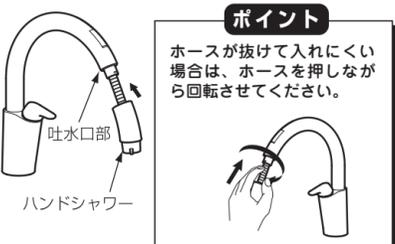


5 ホースと電磁弁の接続

1. 電磁弁の抜け止めカバー・固定リングを外す。

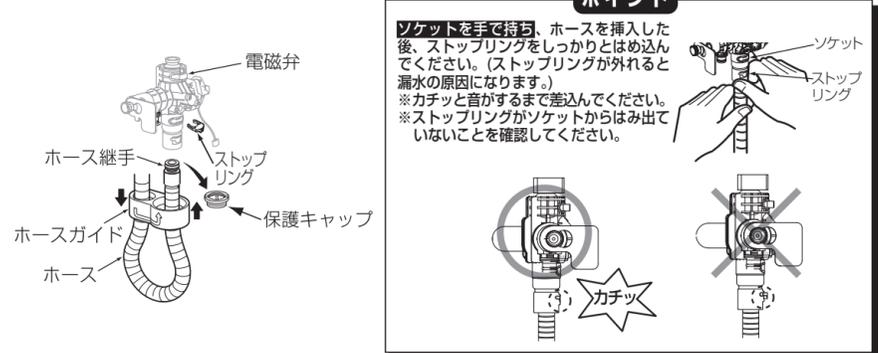


2. ハンドシャワーを吐水口部に収納する。



ポイント
ホースが抜けて入れにくい場合は、ホースを押しながら回転させてください。

3. ホースをホースガイドの矢印のとおりを通し、ソケットを手で持ち、ホースを電磁弁のソケット部に差し込み、ストップリングで固定する。



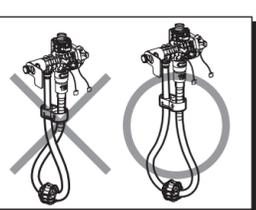
ポイント

ソケットを手で持ち、ホースを挿入した後、ストップリングをしっかりとめ込んでください。(ストップリングが外れると漏水の原因となります。)
※カチッと音がするまで差込んでください。
※ストップリングがソケットからはみ出していないことを確認してください。

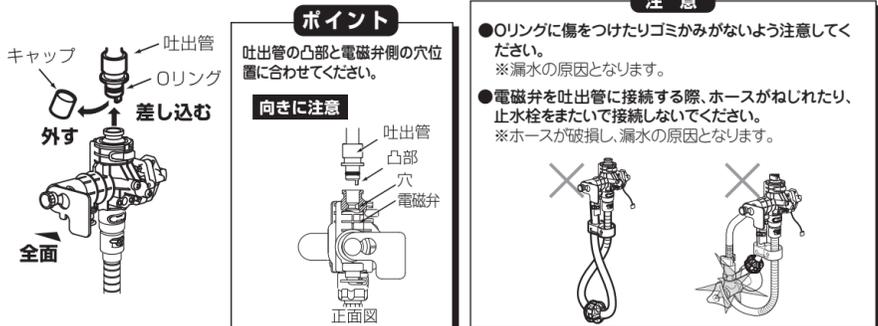


注意

継ぎ手を接続する際はホースがねじれないように注意してください。
※ハンドシャワーがスムーズに引き出せなくなります。

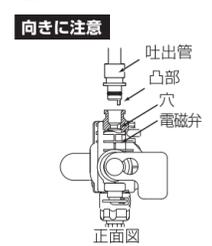


4. 電磁弁を吐出管に接続する。



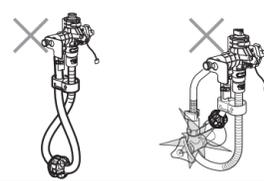
ポイント

吐出管の凸部と電磁弁側の穴位置に合わせてください。

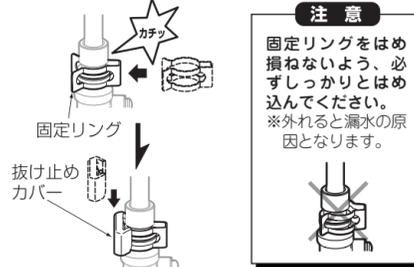


注意

●Oリングに傷をつれたりゴミがみがないよう注意してください。
※漏水の原因となります。
●電磁弁を吐出管に接続する際、ホースがねじれたり、止水栓をまたいで接続しないでください。
※ホースが破損し、漏水の原因となります。



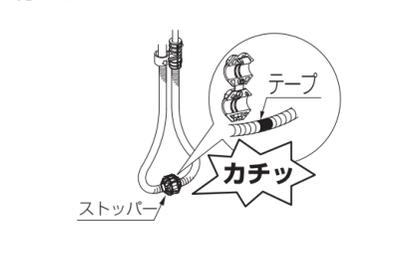
5. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



注意

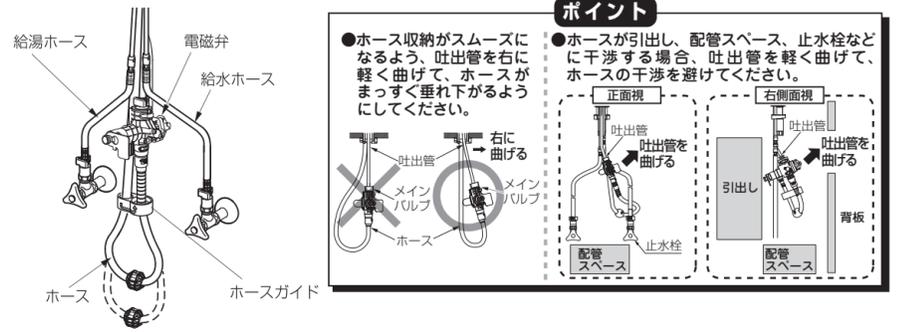
固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

6. ストッパーをホースのテープ部に取り付ける。



6 ホース収納性の確認

1. ハンドシャワーを出し入れし、ホースが給水・給湯ホース・電磁弁等と干渉せず、スムーズに上下に動くことを確認する。

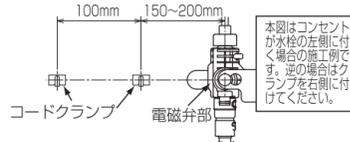


●ホース収納がスムーズになるよう、吐水管を右に軽く曲げて、ホースがまっすぐ垂れ下がるようにしてください。
●ホースが引出し、配管スペース、止水栓などに干渉する場合は、吐水管を軽く曲げて、ホースの干渉を避けてください。

7 電源部の接続

注意
濡れた手で触れたり、水がかからないよう十分注意してください。
※発火・ショート・感電・故障の原因となります。

1. キャビネットの背板にコードクランプを取り付ける。(下図2か所は必ず付けてください。)

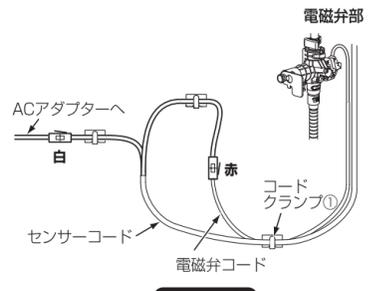


本図はコンセントが水栓の左側に付く場合の施工例です。逆の場合はケーブルを右側に付けてください。

2. 背板に沿ってセンサーコード、電磁弁コード2本を湯側止水栓の上から左へ通す。

注意
コード類とホース等が絡まないようにしてください。
※発火・ショート・感電の原因となります。

4. コードをコードクランプでキャビネット内に固定する。(5~6か所)



ポイント

上図の「コードクランプ①」は、2つのコネクターよりも下に設置してください。
※漏水や結露により水滴がコードを伝った場合に、コネクターに到達しないようにするためです。

5. ACアダプターをコンセントに接続する。



6. 施工後タグを水栓本体のハンドル部に取り付けてください。



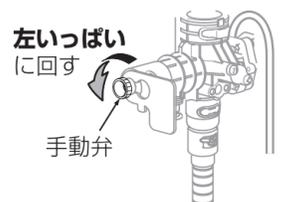
4. 施工後の調整

以下の手順の通り、正しく調整してください。

1 作動確認

1. ACアダプターがコンセントに正しく差し込まれていることを確認する。

2. 電磁弁の手动弁が「左いっぱい」に回っていることを確認する。



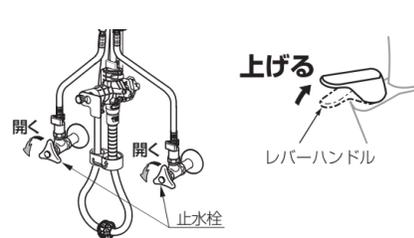
ポイント

手動弁は工具を使わず手でゆっくり回してください。

注意

左いっぱいには回さないと止水不良(センサーに手をかざしても水が止まらない)の原因となります。

3. 止水栓を開き、レバーハンドルを上げる。



注意

高温に注意してください。
※レバーが湯側になっていると不意に高温の湯が出てヤケドをする恐れがあります。

4. センサーに手をかざして、吐水・止水を確認する。

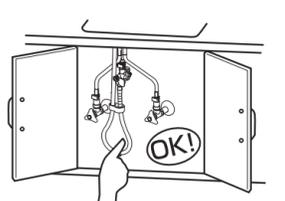


ポイント

●感知エリアは右図のように感知エリアになっています。
●約3秒間手をかざし続けると自動的に止水します。
●10分間吐水が続くと自動的に止水します。

5. センサーまたはレバーハンドルを閉じて止水し接続部からの漏水がないか確認する。

注意
本製品には安全のため、圧力逃がし弁(約2MPa)を内蔵しています。配管の耐圧検査(1.75MPa以上)を行うときは、止水栓を閉めて実施してください。
※圧力逃がし弁が作動し、正しく検査ができなくなります。



2 ストレーナの掃除

注意

作動確認後、**ストレーナを必ず掃除**してください。
※ストレーナが詰まると流量が少なくなり、十分な機能が発揮されません。

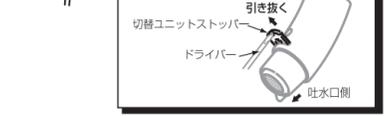
切替ユニットのストレーナの掃除

1. ハンドシャワーを引き出す。
ハンドシャワー
引き出す

2. 裏側にある切替ユニットストッパーをマイナスドライバーなどで引き抜く。

ポイント

切替ユニットストッパーは、片側にドライバーなどで取り外すための溝があります。ドライバーを溝に掛けて取り外してください。



3. 切替ユニットを外して、ストレーナに付いたゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。



4. 切替ユニットを取り付ける。

ポイント

取り付けるときは、位置合わせの向きを合わせて差し込んでください。

注意

- 切替ユニットストッパーを取り付けるときは、溝が吐出口側になるようにしてください。
- 取り付け後は切替ユニットが抜けてこないことを確認してください。



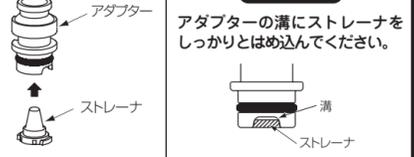
ストレーナの掃除

1. 止水栓を閉じる。(右いっばいに回す)
右いっばいに回す
止水栓

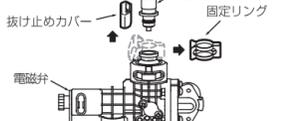
5. ストレーナをアダプターに取り付ける。

ポイント

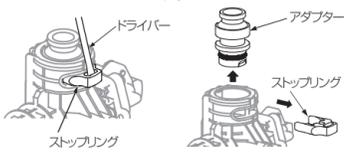
アダプターの溝にストレーナをしっかりとめ込んでください。



2. 電磁弁の抜け止めカバーと固定リングを外し、吐出管から電磁弁を外す。
※洗面器などで排出される水を受けてください。



3. ストップリングをマイナスドライバーで外し、アダプターを外す。



4. ストレーナをマイナスドライバーで外し、ゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。

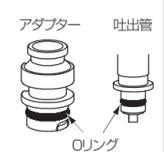


6. アダプターを電磁弁に取り付け、ストップリングを取り付け、吐出管に接続する。



注意

- アダプターを取り付ける際、および吐出管に接続する際、Oリングに傷をつけたり、ゴミかみがないように注意してください。
※漏水の原因になります。



寒冷地の場合

1. 給水(給湯)の止水栓を閉じる。(右いっばいに回す)



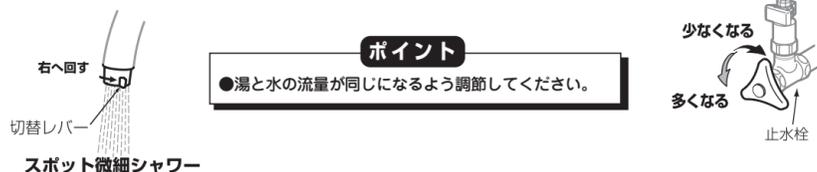
2. ストレーナを取り外し、ゴミ等を歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。



3. ストレーナを取り付ける。

3 流量の調節

レバーハンドルを全開にしたとき、水側または湯側のスポット微細シャワーの流量が8L/min(※)を越える場合は、止水栓で流量調節をしてください。
(※: 1リットルの容器をいっばいにするのに約8秒)



4 お客さまが施工後すぐに使用しない場合

お客さまが施工後すぐに使用しない場合は、ACアダプターを抜くか、もしくはブレーカを落とす。

5. 引渡前の確認

注意

- 電磁弁部の手動弁を左いっばいに回した状態で、タグをしっかり差し込んでください。
※タグがしっかり挿し込まれていないと手動弁が回り、水が止まらなくなる可能性があります。
- 施工後は、電磁弁部の水抜栓が閉じている(右いっばいに回っている)ことを確認してください。(寒冷地仕様の場合)
※開いた状態のままだと、漏水の原因になります。



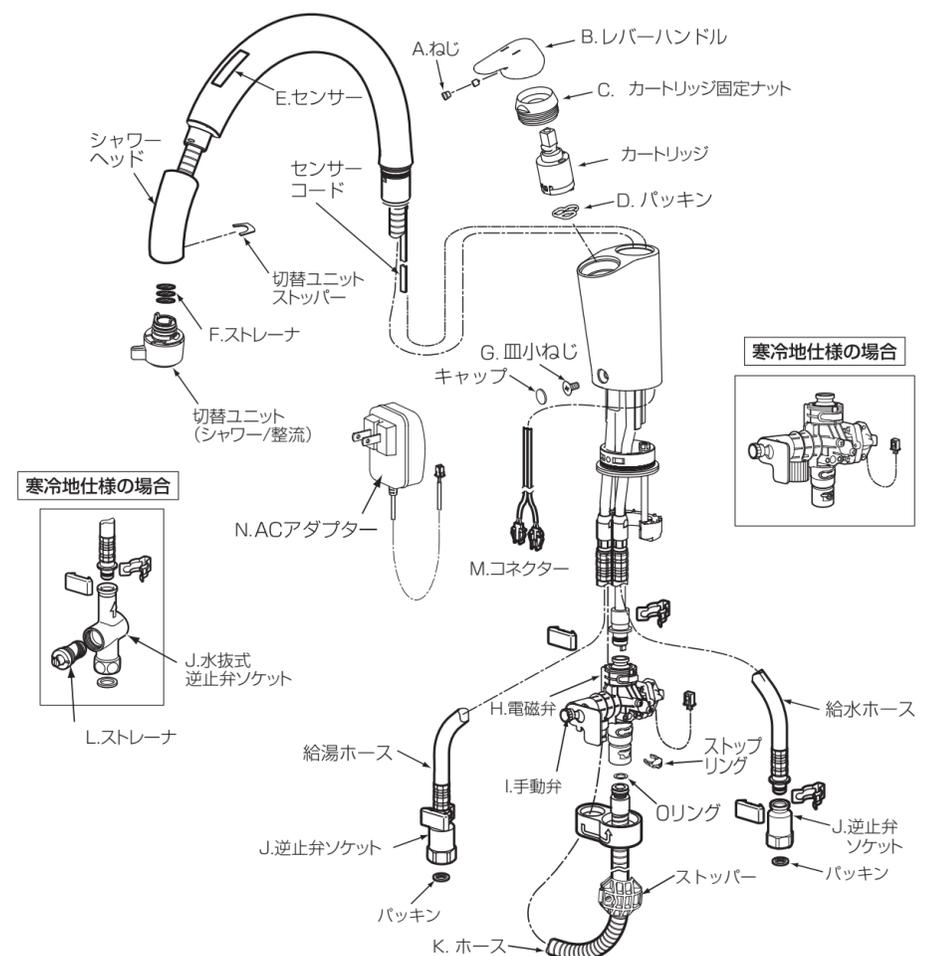
お客さまに引き渡す前にもう一度通水し、次のような現象がないか確認してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置	参照項目
吐水しない	止水栓は開いているか?	—	止水栓を開く。	施工後の調節「流量の調節」
	レバーハンドルは開いているか?	B	レバーハンドルを開く。	
	コンセントに電気がきていない または停電中ではないか?	I	ブレーカーを確認する。 *停電の場合、手動弁を開く(右いっばいに回す)と吐水します。停電が解除されたら手動弁を閉じて(左いっばいに回す)ください。	取扱説明書「停電および故障時の応急処置」
	ACアダプターがコンセントに差し込まれているか?	N	ACアダプターをコンセントに差し込む。	施工方法「電源部の接続」
	センサーの表面が汚れていないか?	E	汚れをふきとる。※1	
	コネクターが外れていないか?	M	コネクターを接続する。	
	断水中ではないか?	—	回復するまで待つ。	
流量が少ない	逆止弁が壊れていないか? (凍結等により)	J	逆止弁を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	止水栓は十分開いているか?	—	止水栓を十分開く。	施工後の調節「流量の調節」
	ストレーナにゴミ詰まりはないか? 配管途中に大きな抵抗はないか? レバーハンドルを絞らずに開いているか?	F・H・L — B	ゴミ等を水で洗い流す。 抵抗となる障害物を取り除く。 レバーハンドルを開く。	施工後の調節「ストレーナの掃除」
水が止まらない	ゴミかみはないか?	D	ゴミ等を水で洗い流す。	
	キズはないか?	D	キズがあれば部品を交換する。	
	ゆるみはないか?	C	カートリッジ固定ナットを締める。締め過ぎるとレバーハンドルが重くなる場合があります。	
	手動弁が開いてないか?	I	手動弁を閉じる。(左いっばいに回す)	
	センサーの感知エリア内に障害物はないか?	E	障害物を取り除く。	施工前に「施工完了図」 施工後の調節「作動確認」
湯水の逆流がある	逆止弁は正常か?(ゴミ、砂かみはないか?・Oリングにキズはないか?)	J	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
希望の温度が得られない	流量調節はよいか?	—	適正流量に調節する。	施工後の調節「流量の調節」
	ストレーナにゴミ詰まりはないか?	F・H・L	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調節「ストレーナの掃除」
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか?	G	ねじをしっかりと締める。	
ハンドルがガタつく	ゆるみはないか?	A	ねじをしっかりと締める。	
ホースがスムーズに収納できない	シンク内でホースがねじれたり、電磁弁と干渉していないか?	H・K	ねじれおよび干渉していないか確認する。	施工方法「ホースの収納性の確認」

注意

- ※1センサー表面の汚れをふきとる場合は、キズをつけないようにしてください。
※キズが付くと正常に作動しなくなる場合があります。

以下の現象は、故障ではありません。
●水を止めた後に少しのあいだ水が垂れますが、切替ユニットの内部に溜まった少量の水が排出されるため、故障ではありません。
●センサーによる吐水・止水時にカチカチと音が出るのは、電磁弁の動作音によるもので、故障ではありません。



寒冷地仕様の場合

